

第2期廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検討部会を開催しました。

■部会開催概要

日時：令和3（2021）年1月23日（土） 14時～16時

目的：第2期廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を進める上で、戦略により幅広い視点による意見を反映するために、総合戦略検討会議の委員以外の実践者や当事者と意見交換をする場として開催しました。

参加者：活動実践者（民間企業、NPO、市民活動等）15名、検討会議委員6名、市関係部署職員6名
合計27名が参加しました。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、オンラインにより開催しました。

■内容

(1) 総合戦略及び意見交換テーマの説明

事務局（廿日市市経営政策課）より、意見交換に向けて以下の説明を行いました。

- ① 廿日市市の基礎データ（人口の現状、人口の将来展望、稼ぐ力分析、観光消費額）
- ② 第6次総合計画と総合戦略の関係について
- ③ 第2期総合戦略の策定方針
- ④ 本日の意見交換テーマについて

(2) テーマ別意見交換

事前に設定された、総合戦略に関連するテーマ毎に、3つのグループに分かれ、それぞれのテーマについて意見交換を行いました。

(3) 発表（グループ毎）

グループ内で話し合った内容について、各グループから発表しました。

(4) 発表に対するコメント

今回の開催を振り返り、検討会議の山川座長よりコメントをいただきました。



■意見交換（テーマ別主な意見）

テーマ1 稼ぐ地域をつくる

①起業・創業しやすい環境づくり

- 起業したい人がどうすればいいのかが分からない。
行政によるサポート体制を整備する。

②多様な人材の魅力ある働き方をかなえる

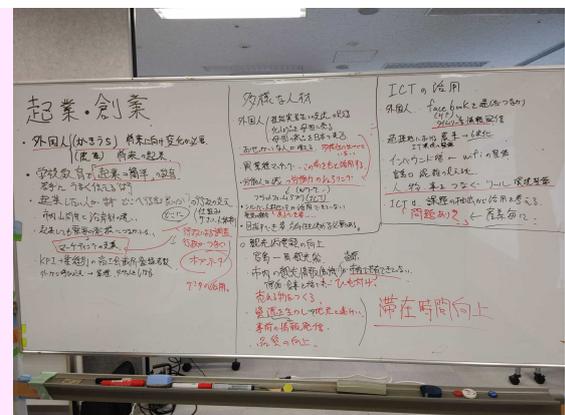
- 異業種間のマッチングを活用する。

③ICTの活用により、しごとの付加価値を高める

- ICTを活用、農業に付加価値を付け過疎地に人を呼び込む。
- 増加するインバウンドに対応して、フェリー乗り場にWi-Fi等を整備する。

④観光消費額が向上する

- 廿日市市は宮島だけではない。より広いエリアへ誘導できるような施策が必要である。
- 廿日市市でないと体験できない観光メニューを用意する。



テーマ2 廿日市市に愛と縁がある人をつくる

①廿日市市のよさを知るファンを拡大する

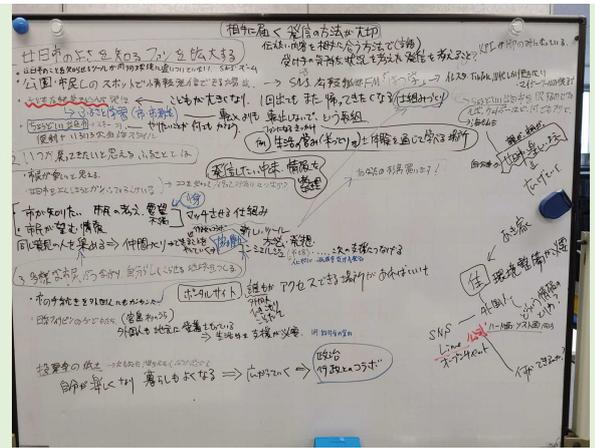
- 自分たち（市民・子ども・親）が普段の生活を楽しんでい
る姿を発信する。
- 伝えたい内容を吟味し、相手に合った方法で伝える。

②いつか戻ってきたいと思えるふるさととは

- 子どもたちを巻き込んだ情報発信（ふるさと学習）に力を
入れる。
- 転入者を増やすよりも、転出者を減らす取組に力を入れる。

③多様な市民がつながり、自分らしく暮らせる地域をつくる

- 外国人やあらゆる人が、ポータルサイト等で、情報を入手できることが大切。



テーマ3 子育てにやさしいまち

①子育て世代に選ばれ続けるまちをつくる

- 子育てに関する情報を簡単に受け取れる仕組みをつくる。
- ワークシェアや時短勤務など、子育て世代も働ける新しい
働き方の実現が必要。

②子育てが楽しくなるまちをつくる

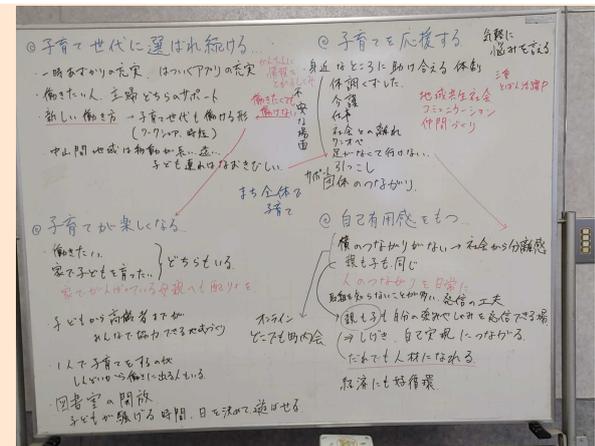
- 働きたい人だけではなく、家で頑張っている母親への配慮
も大切。

③子育てを応援するまちをつくる

- 身近なところに助け合える体制が必要。
- 不安な場面（体調不良、仕事との両立、社会とのつながり）で、気軽に悩みを相談できる事が大切。

④自己有用感を持つ子どもを育てる

- 自分の強みや趣味を発信することで、刺激が生まれ自己実現につながり、だれでも「人材」になれる。



総合戦略検討会議座長 [広島修道大学 山川肖美教授]

主にテーマ2に参加をさせていただきました。意見交換を通して多くの気づきがありましたが、ここでは2点だけふれます。1つは、廿日市のよさに対する捉え方です。「ちょうどいい廿日市」というキャッチフレーズがよい、という話が聴かれました。第1期総合戦略の検討会議の時は、廿日市市は「そこそこよい」と「そこ！がよい」の両方をかけて「そこそこ」という言葉が使われていましたが、「中途半端ではないか」という声もありました。今回の意見交換を通じて、「ちょうどよいところ」が「廿日市のそこ！がよい」にあたることを、もっと丁寧にアピールする必要性を感じました。もう1つは、当事者（困っている人、やりたいことがある人）の話聞く、その人と一緒に何かを実現することが、地域づくりやまちづくりの基本、つまり戦略を実現していく上でも大切な視点であることを教えていただきました。

どうもありがとうございました。